



10月29日(火)

A会場

介護・医療制度 11:00~12:00 A-1

地域包括ケアの課題と 社会保障制度改革の行方

現在進行中の社会保障制度改革議論を踏まえ、地域包括ケアを展望

白澤政和 桜美林大学大学院老年学研究科 教授



1994年、大阪市立大学生活学部人間福祉学教授に就任。2011年、大阪市立大学名誉教授となる。主要著書は「介護保険制度」のあるべき姿―利用者主体のケアマネジメントをもとに、「地域のネットワークのつくり方―地域包括ケアを推進するために―」ほか。主な受賞は「吉村に賞」「ケースマネジメントの理論と実際」により、「福武直賞」「ケースマネジメントの理論と実際」により、日本学術会議会員、日本ケアマネジメント学会理事長、日本社会福祉士養成校協会前会長、日本在宅ケア学会前理事長、日本社会福祉学会前会長など。日本で最初にケアマネジメントに関する論文や著書を書き、日本の土壌でのケアマネジメントを提唱した。

在宅医療 13:00~14:00 A-2

在宅患者が快適に過ごすための 排尿コントロール

~高齢者施設での訪問診療における泌尿器科との連携~

関西圏・関東圏で在宅医療を手掛ける医師が、在宅医療で効果をあげる泌尿器科のノウハウを紹介

神農雅秀 医療法人慶春会 あおいクリニック(ナチュラルケアグループ) 院長



医学博士。専門は総合内科、泌尿器科、腎臓内科。日本泌尿器科学会(認定)専門医・指導医。京都府立医科大学卒業後、同大学附属病院に勤務。その後、松下記念病院 泌尿器科、西陣病院の泌尿器科医長の経験を経て、2013年4月に医療法人慶春会あおいクリニックの院長に就任。

介護 14:20~15:20 A-3

「チャーム・ケア」の経営戦略と 介護付有料老人ホーム運営のポイント

関西圏で着実に運営実績を伸ばし、昨年上場した「チャーム・ケア」の経営ビジョンと運営におけるポイントを披露

下村隆彦 チャーム・ケア・コーポレーション 社長



1943年生まれ。1966年3月、大阪工業大学建築学科卒業。1969年4月、下村建設株式会社入社。1973年6月、代表取締役就任。2004年6月、介護事業に参入する。2004年11月、株式会社愛ライフ代表取締役に就任。2007年12月、株式会社チャーム・ケア・コーポレーション代表取締役就任(株式会社愛ライフより社名変更)。

10月29日(火)

B会場

行政 11:10~12:10 B-1

厚生労働省が考える 高齢者向け住まいのあり方

理想の高齢者住宅像と、それに対する厚生労働省の施策について解説

山口義敬 厚生労働省高齢者支援課 高齢者居住福祉専門官



2006年、東京大学大学院工学系研究科建築学専攻修士課程を修了後、国土交通省入省。建築基準法や公営住宅法の担当官として、構造計算書偽装問題や東日本大震災後の住宅復興など、建築・住宅行政に取り組む。2012年4月からは、厚生労働省においてサービス付き高齢者向け住宅や有料老人ホームを担当。

リスクマネジメント 13:10~14:10 B-2

介護事業者が遭遇しうる 法的リスクと対処法

介護事故・労務管理・財産管理、入居者対応など、事業者が直面しうるトラブル事例とその対処法について解説

長谷川桃、家永勲 弁護士法人アヴァンセリーガルグループ 執行役員・弁護士



上智大学外国語学部ドイツ語学科卒業。東京弁護士会所属、日本司法支援センター相談員を務める。離婚、相続等の家事一般(涉外事件等含む)や消費者問題含む民事訴訟一般が得意分野。近年では介護事業者向けのセミナーを数多く手がけており、労務管理や介護事故など、介護施設を取り巻く法律問題にも深く精通している。

在宅医療 14:30~15:30 B-3

キュアからケアへ、 在宅医療のこれからの姿

~鹿児島での地域包括ケアの先進事例~

14年間の歩みと地域包括ケア構築、従来のキュア志向の医療に対するケア志向の医療という新しい概念を提唱

中野一司 医療法人ナカノ会 ナカノ在宅医療クリニック 理事長



1987年、鹿児島大学医学部卒業。1999年、ナカノ在宅医療クリニックを開業。その後、訪問看護ステーション、居宅介護支援事業所を開設。2009年に日本在宅医学会大会長を務め、また同年(社)全国在宅医療支援診療所連絡会 IT・コミュニケーション局長就任。近年は在宅医療連携拠点センター事業に注力するほか、高齢者住宅などの複合施設「ケアタウン・ナカノ」構想に着手した。医学博士、薬剤師。鹿児島大学医学部臨床教授。

10月29日(火)

C会場

介護 11:00~12:00 C-1

終末期専用サービス付き 高齢者向け住宅で見た 理想のターミナルケア

名古屋で運営する「終末期専用サービス付き高齢者向け住宅」で実践するターミナルケア/看取り事例を紹介

吉田豊美 ナーシングホームJAPAN 社長



大病院や民間病院で看護師として勤務後、2000年に東光会尾州病院の訪問看護師アージュン「和み」の所長に就任。2005年に訪問看護ステーション「ナースコール在宅センター訪問サービス」を設立。2008年には名古屋市内に末期がん患者に特化した高齢者専用賃貸住宅(当時)「ナーシングホームJAPAN」を開業し、これまでに約200人を看取ってきた。今年9月、2棟目となる「ナーシングホームOASIS」を開業。現在は、看護専門学校講師、在宅ホスピスケア経営コンサルタントとしても活動中。

建設 13:00~14:00 C-2

入居者がたくさん集まる 高齢者住宅の作り方

~コンストラクションマネジメント(CM)の視点から~

医療介護施設のCMによるメリットや、入居する建物、今後の施設トレンドと補助金の実際などを話す

繁野民輝 ユーエス計画研究所 社長 介護施設建築家



大手ゼネコンでの実務経験を積んだ後、設計事務所を30歳で社長として引き継ぐ。医療介護に特化した事務所として専門性の高い建築設計サービスを提供している。「オーナーのための高齢者施設ガイド」。「今、これが売れている」など執筆、講演活動、各種建築賞多数。

介護・医療制度 14:20~15:20 C-3

介護保険部会委員が語る 介護人材処遇改善・人材確保、 保険改正の動向

介護保険制度の行方を眺めながら、事業の健全な発展に欠かせない「人材確保」の難題解決に迫る

河原四良 UAゼンセン日本介護クラフトユニオン 顧問・政策主幹



1984年、株式会社ニチイ学館入社。2000年日本介護クラフトユニオン副会長(兼任)、2002年に同会長となる。2012年に同顧問・政策主幹に就任。厚生労働省社会保障審議会介護保険部会臨時委員、今後の介護人材養成のあり方に関する検討会委員、介護職員等によるたんの吸引等の実施のための制度のあり方に関する検討会委員、内閣府介護人材ワーキンググループ委員のほか、財団法人介護労働安定センター理事も務める。

10月30日(水)

A会場

医療・介護連携 11:10~12:10 A-1

地域高齢者を支える 医療・介護連携について

民間の医療・介護・福祉連合体として、地域の高齢者を支えるための新たな取り組み事例紹介

喜馬通博 医療法人寿山会 喜馬病院 理事長



1979年、関西医科大学卒業。1985年、関西医科大学大学院卒業。医学博士。2008年、医療法人寿山会理事長就任。日本外科学会外科専門医。関西医科大学非常勤講師。警察医、中河内地域連携クリティカルパス委員、大阪府病院協会代議員、介護支援専門員等を務めている。現在、医療法人寿山会と関連会社三輪を運営している。

介護 13:10~14:10 A-2

デザイン・設計でここまで変わる 介護施設における高齢者のQOL

個室感覚の多床室など、高齢者の生活ニーズに合わせた介護施設での「生活環境向上」事例を紹介

太田澄子 社会福祉法人新生活会 常務理事



社会福祉士。中央総合福祉専門学校社会福祉科卒業。1986年から特別養護老人ホーム サンビレッジ新苑に勤務。1995年、同施設の施設長に就任。2008年より現職。岐阜県老人福祉施設協議会副会長や岐阜県社会福祉協議会福祉サービス評価事業運営委員を歴任。共著として「アクセシビリティ・サービス総論」。「尊厳を支えるケアを目指して失敗事例から学ぶ50のヒント集」など。

在宅医療 14:30~15:30 A-3

高齢者施設・サービス付き 高齢者向け住宅での 看取りのポイント

在宅医療のプロが、これまでの事例をもとに高齢者住宅・施設における看取りの注意点やポイントを解説

長尾和宏 医療法人社団裕和会 長尾クリニック 理事長



1984年、東京医科大学卒業。大阪大学第二内科入局。聖隷病院、大阪大学病院第二内科、市立芦屋病院勤務を経て1995年、兵庫県尼崎市で長尾クリニックを開業。日本慢性期医療協会・理事、日本ホスピス在宅ケア研究会・理事、日本尊厳死協会・副理事長、関西支部長、関西国際大学・客員教授。主な著書は「平穏死・10の条件」、「胃ろうという選択、しない選択」、「平穏死という親孝行」(アーススター・エンターテインメント)、「がんの花道」、「家族が選んだ平穏死」、「医療否定本に殺されない48の真実」、「抗がん剤・10のやめ時」など多数。

10月30日(水)

B会場

在宅医療 11:00~12:00 B-1

在宅医療の普及と 拡大のためのICT活用 ~地域連携、効率化実現~

スマホやクラウドを用いた低コストで実践的なICT活用による情報共有や効率化、地域連携などの実際を紹介

遠矢純一郎 医療法人社団プラクナス 桜新町アーバンクリニック 院長



1992年、鹿児島大学医学部卒業。2000年に用賀アーバンクリニック開業、副院長に就任。2009年より現職。東京都世田谷区を中心とした在宅医療を実践。特に開業当初よりICTを積極活用し、医療・看護のチームケアに活かす。今年度の厚生労働省のモデル事業である、認知症初期集中支援チームの受託を受け、クリニックを主体とした活動を開始した。日本内科学会総合内科専門医、日本在宅医学会指導医。

介護 13:00~14:00 B-2

異業種参入企業だから見えた 高齢者住宅・介護事業で失敗しないコツ

~サービス付き高齢者向け住宅運営者の本音~

異業種からの介護事業参入における失敗しないための運営手法を、サービス付き住宅の運営者が本音で話す

南部淳 南部薬品 社長



1961年、愛知県生まれ。岐阜薬科大学卒業後、一部上場企業に入社。1987年に祖父が創業した南部薬品株式会社に入社。専務取締役を経て1998年に代表取締役就任。介護業界の成長をにらみ、1999年にケアマネジャーの資格を取得。訪問介護事業、居宅支援、福祉用具貸与、訪問看護を開始。2012年、デイサービスとサービス付き高齢者向け住宅のFC事業を開始。2014年4月に2階に新本社を設置したサービス付き高齢者向け住宅を開業予定。

リスクマネジメント 14:20~15:20 B-3

管理者なら知っておきたい 事例から学ぶ介護事故・ 入居者クレーム対応法

介護現場で実際に起こった事故・トラブルをもとに、事業者としての対応策・事前防止策のあり方を解説

山田滋 安全な介護実践研究センター



早稲田大学法学部卒業後、現あおいニッセイ同和損害保険入社。2004年より介護・福祉施設の経営企画・リスクマネジメント企画立案に携わる。その後インターリスク総研、あおいニッセイ同和損害保険で勤務。2013年5月に退社し、安全な介護実践研究センターを設立。現在は、介護事業所のリスクマネジメントなどをテーマに、講演・執筆活動を行っている。老人福祉施設や訪問介護事業者と一緒に取り組む、現場で積み上げた実践に基づくリスクマネジメントの方法論は「わかりやすく実践的」と好評。

10月30日(水)

C会場

介護 11:00~12:00 C-1

介護事業者のM&A活用法 ~地域密着企業から全国規模まで~

M&Aを含めた事業承継の選択肢を説明し、その進め方や注意点について事例を交えて解説

社長 荒井邦彦 事業開発室室長 石垣圭史 ストライク



1970年、千葉県生まれ。一橋大学商学部卒業。公認会計士・税理士。1993年、太田昭監査法人(現・新日本監査法人)入社。財務デューデリジェンス、株式公開の支援などの業務を経験する。1998年、株式会社ストライクを設立。これまで、700社以上のM&Aに関与している。

介護 13:00~14:00 C-2

「木下の介護」の 新規開発・M&A戦略

~成功する有料老人ホーム運営~

有老ホームとサ付住宅の比較や運営における落とし穴、高齢者住宅を取り巻く行政の動向を解説

福元均 木下の介護 取締役常務



事務機器メーカー、外食産業、都市再開発事業を経て、医療介護業界に参入。医療法人、社会福祉法人の施設において介護職員から施設責任者まで経験を積み、その後、コンサルタントとして複数の会社の特養・老健施設、有料老人ホーム、グループホーム、デイサービスなどの新規開発ならびに運営に20年以上携わる。株式会社木下の介護の介護事業立上げに貢献。介護施設M&Aの第一人者。2011年より、日本の「KAIJO」についてアジア各地で講演を多数行う。東京都福祉サービス第三者評価機関評価者。

介護 14:20~15:20 C-3

サ付住宅は終の棲家 ~そのためのケアサービスとは~

看取りにも対応したサービス付き高齢者向け住宅の実例をもとに、理想のケアサービス体制を考察

浅川澄一 福祉ジャーナリスト 元日本経済新聞編集委員



1971年慶応義塾大学経済学部卒業。日本経済新聞社にて、流通産業、サービス産業、ファッションビジネスなどを担当。1987年11月「日経トレンド」を創刊し、初代編集長となる。1998年から編集委員。現在はフリーのジャーナリストとして福祉・医療分野で活躍中。主な著書に「あなたが始めるケア付き住宅―新制度を活用したニュー介護ビジネス」(雲母書房)「これこそ欲しい介護サービス」(日本経済新聞社)などがある。